

# 浜松市“やらまいか”総合戦略

## 目 次

<b>1 基本的な考え方</b> .....	1
(1) 浜松市総合計画との関係 .....	1
(2) 計画期間 .....	1
(3) 策定体制 .....	2
(4) 策定後の検証体制 .....	2
(5) 策定後の検証手法 .....	3
(6) 浜松市“やらまいか”人口ビジョンを受けて .....	4
<b>2 基本目標</b> .....	5
(1) 基本目標Ⅰ 若者がチャレンジできるまち .....	5
(2) 基本目標Ⅱ 子育て世代を全力で応援するまち .....	5
(3) 基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち .....	6
<b>3 基本目標を達成するための政策・施策体系</b> .....	7
<b>4 具体的な施策</b> .....	10

# 1 基本的な考え方

## (1) 浜松市総合計画との関係

平成 27 年度からスタートした浜松市総合計画は、策定の基礎資料として推計人口を作成し、人口予測を踏まえて 30 年後の理想の姿を浜松市未来ビジョン（基本構想）として定め、その実現に向けて、浜松市未来ビジョン第 1 次推進プラン（基本計画）では、バックキャスティング\*方式により、今、何をすべきか、という視点で政策を定めた。

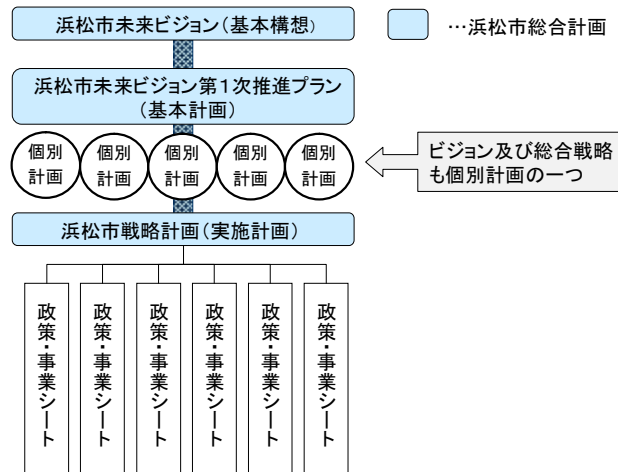
これを受け、平成 27 年度施政方針では、「脱人口減少・少子化社会への挑戦」をテーマに掲げ、若者・子育て世代を中心とする雇用の創出などによる生活基盤の安定と、待機児童の解消などによる子どもを産み育てやすい環境づくりに取り組むこととしている。

総合計画は、長期的な視点で 30 年後の未来を描いたものであり、人口問題を踏まえて策定している。このため、浜松市“やらまいか”総合戦略（以下「総合戦略」）の策定については、市政の根幹となる総合計画を基本とし、本市の特色を活かした独自性のある人口減少対策を定める。

総合戦略は、総合計画を実現するための個別計画の 1 つと位置付ける。

\*バックキャスティング：目標となる将来の理想の姿を想定し、その姿から現在を振り返り、今なすべきことを定める考え方

### 【参考】総合計画と個別計画の関係性



## (2) 計画期間

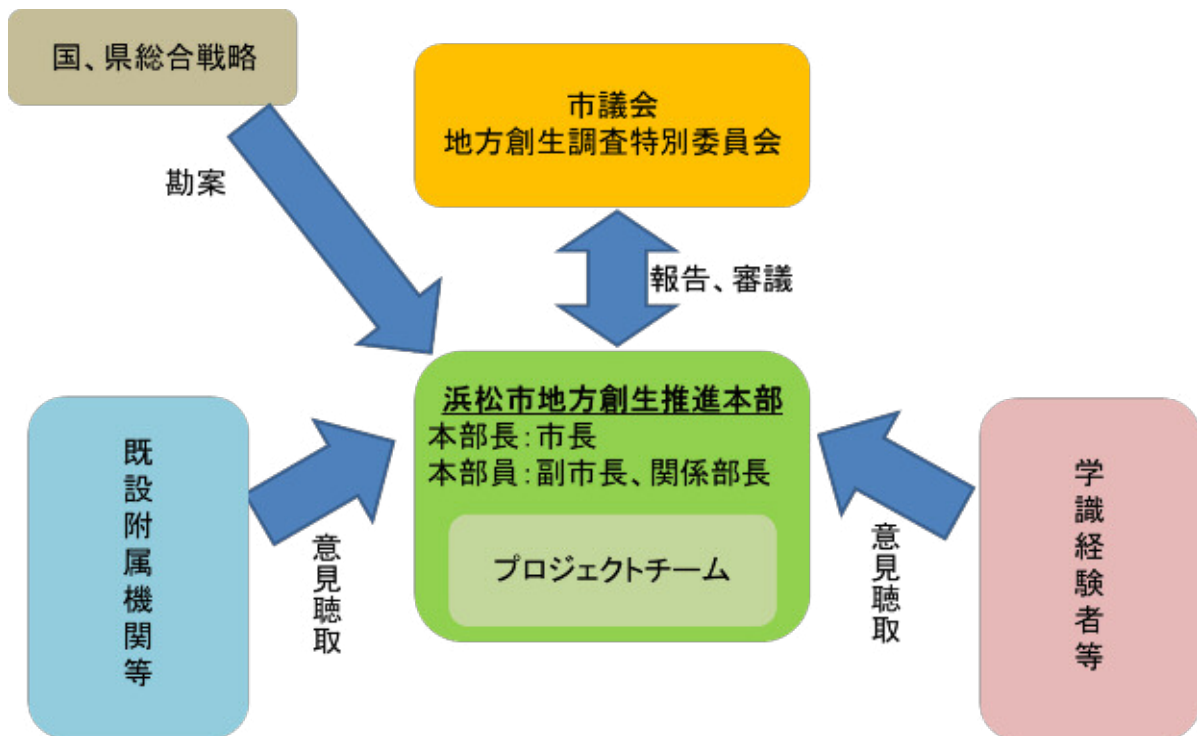
総合戦略の対象期間は、平成 27（2015）年度から平成 31（2019）年度の 5 年間とする。

### (3) 策定体制

総合戦略の策定に当たり、市長を本部長とし、関係部局長で組織する推進本部を平成27年4月に設置し、策定作業を進めた。

住民（市民活動団体など）を始め、産業界・教育機関・金融機関・労働団体・メディア（産学金労言）との連携体制として、各界の有識者23名によるヒアリングを実施するとともに、市議会地方創生調査特別委員会での審議、浜松市行政経営諮問会議への諮問・答申を経た。有識者ヒアリングの意見、特別委員会の審議内容及び行政経営諮問会議答申について、的確に総合戦略へ反映させた。

また、策定過程において、地元金融機関などと「地方創生に係る相互協力及び連携に関する協定」を締結するとともに、静岡大学を中心とした「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に参加するなど、地方創生加速化の具体的な取り組みに向け、産官学金労言の連携強化を図っている。



【総合戦略策定体制のイメージ】

### (4) 策定後の検証体制

総合戦略の進行管理などは、浜松市地方創生推進本部が担う。

また、総合戦略を着実に推進し、効果検証について妥当性・客観性を担保するため、市議会による審議などに加え、市内の産官学金労言民などの有識者で構成する検証組織の検討を進める。

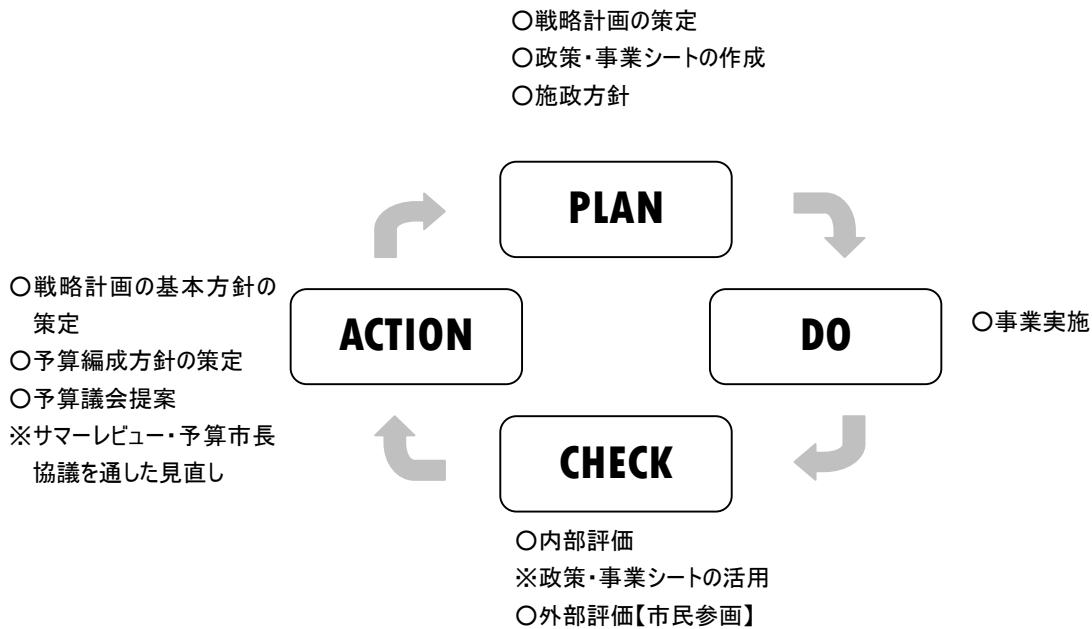
## (5) 策定後の検証手法

総合計画の進捗管理に当たっては、「戦略計画」を毎年策定するとともに、事業を体系的に管理する「政策・事業シート」を作成し、PDCA サイクルによる経営資源の重点化や政策・事業のスクラップ・ビルドを推進している。

これらの取り組みは、庁内に定着し、サマーレビュー\*による新規事業の検証や予算の重点配分などのマネジメントサイクルが効果的に機能している。今後も同様に、戦略計画を核としたマネジメントサイクルを継続する方針であるため、総合戦略の検証についても既存のPDCA サイクルにより管理する。

毎年のPDCA サイクルによる検証の結果や、国の動向などを勘案し、計画期間中は、毎年度総合戦略の見直しを行う。

\*サマーレビュー：次年度の予算編成前に政策の方向性や主要事業の課題などについて検討を行うために開催する会議。



【PDCA サイクルイメージ】

## (6) 浜松市“やらまいか”人口ビジョンを受けて

浜松市の人口は、2008 年をピークに減少に転じており、現在の出生率や移動率などがこのまま続けば、本格的な超高齢社会への突入とともに、人口が引き続き加速度的に減少していくと予想される。

また、人口減少や超高齢社会の到来は、産業の担い手不足による経済面への影響のほか、社会保障費など現役世代の負担増、更には人口分布の変化による生活機能のミスマッチや利便性の低下など様々な影響をもたらす可能性がある。

一方、人口減少は、出生率の低下や、若者層を中心とした人口の市外への流出、とりわけ東京圏への流出に起因する部分が大きく、出生率の上昇や移動率の上昇（転出抑制）を図ることによって、人口の減少スピードを抑制するとともに、長期的には人口構成を最適化することが可能である。

こうしたことから、浜松市“やらまいか”人口ビジョンでは、以下の方針に基づき、人口減少を抑え、長期的に人口構成を最適化することを展望した。

この将来展望の実現を目指し、基本目標を掲げ、人口減少克服に向けた挑戦をスタートさせる。

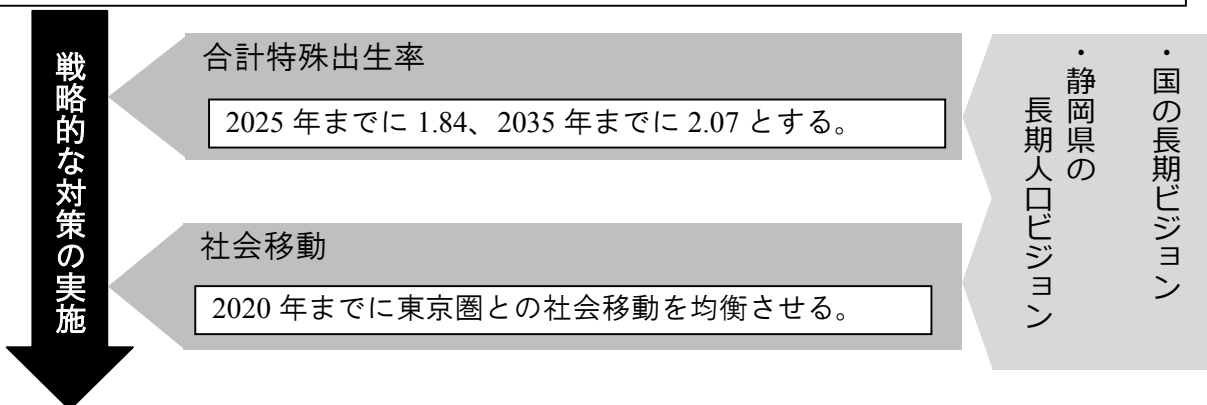
### 人口減少を抑え、長期的な人口構成の最適化に向けた方針

- ・ 若者、子育て世代の生活基盤の安定
- ・ 希望出生数をかなえる環境整備
- ・ だれもが引き寄せられる都市の魅力を創出

○浜松市の将来推計人口（現在の出生率、移動率などがこのまま続いた場合）

2040 年：695,000 人 2060 年：564,000 人

（⇒さらに減少加速⇒） 2100 年：344,000 人



○浜松市が目指す将来の人口（将来人口展望）

2040 年：734,000 人 2060 年：659,000 人

（⇒人口が安定⇒） 2100 年：590,000 人

## 2 基本目標

合計特殊出生率の上昇を目指すとともに、東京圏との社会移動を均衡させることにより、人口減少を抑え、長期的な人口構成の最適化を図るため、以下の基本目標を掲げる。

### (1) 基本目標Ⅰ 若者がチャレンジできるまち

◎若者、子育て世代の生活基盤の安定

#### 基本目標Ⅰ 若者がチャレンジできるまち

「仕事のない場所に人は集まらない!!」

住民基本台帳移動報告では、2010年から15-19歳の転出超過が続いており、2014年では現役世代である30歳代、40歳代の転出超過も大幅に拡大している。

“ものづくりのまち”として発展を遂げた本市の強みを活かし、地元産業力の強化によって魅力的な雇用の場を創出するとともに、あらゆるジャンルの創業や女性の就業などの支援を強化することで、若者、子育て世代の生活基盤の安定を図り、転入促進・転出抑制を目指していく。

数値目標(2024年)

- ・ 満足 of いく雇用機会に恵まれていると思う人の割合

26.0% → 30.0%

- ・ 市内総生産額

2兆9,661億円 → 3.3兆円以上

### (2) 基本目標Ⅱ 子育て世代を全力で応援するまち

◎希望出生数をかなえる環境整備

#### 基本目標Ⅱ 子育て世代を全力で応援するまち

「理想とする家族像が実現できないなんて夢がない!!」

2013年の浜松市の合計特殊出生率は1.47であり、静岡県全体の1.53を下回っている。

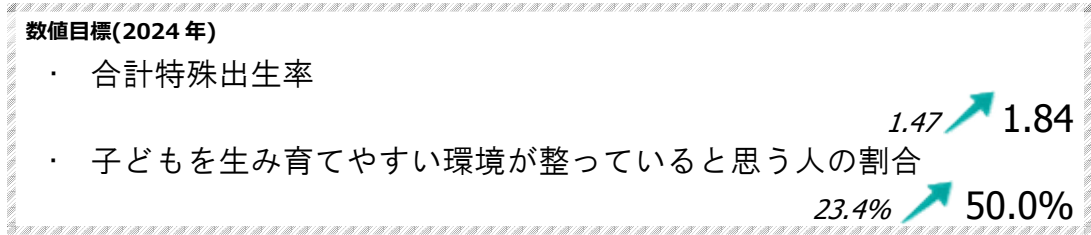
総合計画では、10年後の合計特殊出生率を希望出生率\*である1.84とする目標を定め、希望出生数をかなえる環境整備を進めている。

結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を提供し、子育て世代を全力で応援することで、人口減少に歯止めを掛ける人口置換水準2.07を目指していく。

\*希望出生率（日本創成会議の提唱する算出方法による）

= [(既婚者割合×夫婦の予定こども数) + (未婚者割合×未婚者結婚希望割合×理想子ども数)] × 離別等効果  
浜松市の希望出生率

= [(38.0%×2.07人) + (62.0%×89.0%×2.12人)] × 0.938 ≒ **1.84** （全国の希望出生率は1.83）



### (3) 基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち

◎だれもが引き寄せられる都市の魅力を創出

#### 基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち

「浜松に住み続けたい!!」「浜松で暮らしたい!!」

【若者がチャレンジできるまち】を創り、【子育て世代を全力で応援するまち】を推進しても、浜松に魅力を感じ、浜松を愛し、浜松に暮らし続けてくれないければ、すべての取り組みが一過性のものとなる。

利便性が高く、コンパクトでメリハリの効いた、次世代にツケを残さない、人口減少時代に合ったまちづくりを進めるとともに、いつまでも、安全・安心な暮らし、にぎわいのある生活環境、人とのつながりが見える地域社会など、日常の豊かさを実感できるまちづくりを進めることで、市内外の人を引き寄せる都市の魅力を生み出し、高めていく。





### 3 基本目標を達成するための政策・施策体系

#### 基本目標Ⅰ 若者がチャレンジできるまち

##### I-1 地元産業力の強化

- (1) イノベーションの連鎖を生み出す新産業の創出と既存産業の高度化
  - ◆「ものづくりのまち」の次代を担う成長産業へのチャレンジ支援
  - ◆“やらまいか精神”が根付く地場産業の支援
  - ◆農林水産業の6次産業化などの推進
  - ◆天竜材のブランド力強化及び流通拡大
- (2) 海外展開支援と集積による地域企業活性化
  - ◆海外の活力を取り込むビジネス展開支援
  - ◆新たなリーディング産業となる企業の誘致推進
  - ◆農林水産物の海外販路開拓
- (3) 新規創業・就農のチャレンジサポート
  - ◆創業希望者への相談・情報提供の推進
  - ◆新規就業者などへの支援
- (4) 担い手第一主義の農林水産業振興
  - ◆農地の流動化による有効利用の推進
  - ◆多様な担い手の育成
- (5) 浜松版スマートシティの推進
  - ◆浜松版スマートシティの実現
  - ◆日照時間日本一を活かしたエネルギー自給率の向上

##### I-2 労働供給力の開拓

- (1) チャレンジ・再チャレンジを後押しする就労支援
  - ◆ハピキャリもバリキャリも活躍できる環境づくり
  - ◆UIJターン・地元就職支援
  - ◆就職を希望する人への就労支援
  - ◆働きやすさ・住みやすさの発信
- (2) だれもが働きやすい労働・雇用環境の整備
  - ◆ワーク・ライフ・バランスの推進

#### 基本目標Ⅱ 子育て世代を全力で応援するまち

##### Ⅱ-1 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

- (1) 結婚・妊娠の希望を全力で応援
  - ◆結婚・妊娠に対する前向きな機運の醸成
  - ◆不妊に対する包括的な支援
- (2) 安心して出産できる環境づくり
  - ◆母子の健康の保持・増進
- (3) 待機児童の解消と子育て支援の充実
  - ◆保育施設・放課後児童会の拡充
  - ◆地域の子育て力の向上
  - ◆子育てに対する不安や負担の軽減

Ⅱ-2 「創造都市・浜松」を担う次代の育成

- (1) 第2・第3のノーベル賞受賞者の育成
  - ◆子どもの才能を伸ばす特別課外講座の充実
  - ◆子どもの興味を引き出す機会の充実
- (2) 地域の力を活かした市民総がかりのひとづくり
  - ◆地域・保護者・学校の連携による学校づくり
  - ◆地域愛をはぐくむ教育の実践
  - ◆子どもの個性に応じた支援体制の整備

**基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち**

Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり

- (1) 災害に強いまちづくりの推進
  - ◆防潮堤の早期実現
  - ◆地域防災の推進

Ⅲ-2 にぎわいの創出

- (1) 創造都市の推進
  - ◆多様な音楽に触れる機会の創出
- (2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口の拡大
  - ◆ブランドの確立
  - ◆国内外からの交流人口の拡大
- (3) 地域の特性を活かした魅力づくり
  - ◆まちなかのにぎわい創出
  - ◆中山間地域のにぎわい創出

Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成

- (1) 次世代を見据えた地域コミュニティの形成
  - ◆市民協働のまちづくりの推進
  - ◆多文化共生による市民主体の地域社会の形成
- (2) 人と人とのつながりをつくる社会の実現
  - ◆医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供
- (3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸
  - ◆一人ひとりが健康づくりに取り組みやすい環境整備

Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくり

- (1) 拠点ネットワーク型都市構造の形成
  - ◆集約型の都市づくり
  - ◆拠点を結ぶ交通ネットワークの形成
- (2) 効果的・効率的な市民サービスの提供
  - ◆持続可能な市民サービス提供体制の構築
  - ◆広域連携の推進

## (参考)「具体的な施策」の構成について

### 4 具体的な施策

基本目標 I 若者がチャレンジできるまち .....▶基本目標

#### I-1 地元産業力の強化

- ・若者、子育て世代の生活基盤を安定させるため、魅力的な「しごと」を創り出していく。ものづくり産業はもとより、農林水産業についても高度化、販路開拓など、稼ぐ仕組みづくりを支援することで、地元産業力の強化に取り組み、若者を中心にチャレンジを後押しする環境整備を進める。

#### (1) イノベーションの連鎖を生み出す新産業の創出と既存産業の高度化

- ・産学官連携による総合的な産業支援により、ものづくり産業の高度化と新産業の創出を図ることで、新たな市場の開拓を進め、競争力のある複合的な産業構造の確立を支援する。
- ・農商工連携、6次産業化などの推進により需要と供給をつなぐバリューチェーン<sup>\*</sup>を構築するとともに、地域資源を活用することで、農業及び水産業の成長産業化による所得の向上と雇用の創出を図る。

<sup>\*</sup>バリューチェーン：農林水産物の生産から製造・加工、流通、消費に至る各段階において、新たな価値を付加しながらつなぎ合わせること。

基本的方向

用語解説

◆「ものづくりのまち」の次代を担う成長産業へのチャレンジ支援 .....▶ 施策

- 公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構<sup>\*</sup>を中心とし、コンシェルジュ事業、企業力向上支援、イノベーション推進を3本柱に、成長6分野<sup>\*</sup>に対して重点的支援を行い、創造産業<sup>\*</sup>の創出やイノベーションの連鎖を促す。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 粗付加価値額（従業員4人以上の事業所）

73,851 千万円 → 92,953 千万円

- ・ 新技術・新製品開発などの事業化件数

43件

200件

重要業績評価指標（KPI）

施策ごとの進捗状況を検証するために設定した指標を記載。

基準値

原則として、平成27年4月1日の数値を記載。  
それ以外は、把握可能な最新の数値を記載。

目標値

2019（平成31）年度の数値を記載。

## 4 具体的な施策

### 基本目標 I 若者がチャレンジできるまち

#### I-1 地元産業力の強化

- ・若者、子育て世代の生活基盤を安定させるため、魅力的な「しごと」を創り出していく。ものづくり産業はもとより、農林水産業についても高度化、販路開拓など、稼ぐ仕組みづくりを支援することで、地元産業力の強化に取り組み、若者を中心にチャレンジを後押しする環境整備を進める。

#### (1) イノベーションの連鎖を生み出す新産業の創出と既存産業の高度化

- ・産学官連携による総合的な産業支援により、ものづくり産業の高度化と新産業の創出を図ることで、新たな市場の開拓を進め、競争力のある複合的な産業構造の確立を支援する。
- ・農商工連携、6次産業化などの推進により需要と供給をつなぐバリューチェーン\*を構築するとともに、地域資源を活用することで、農業及び水産業の成長産業化による所得の向上と雇用の創出を図る。

\*バリューチェーン：農林水産物の生産から製造・加工、流通、消費に至る各段階において、新たな価値を付加しながらつなぎ合わせる。

- ・適切な森林管理を通じて天竜材の FSC（森林管理協議会）認証材としての環境的価値を高めるとともに、低コスト林業の推進や新たな木材製品の開発、海外も含めた販路拡大などにより、林業・木材産業の高度化及び成長産業化を推進する。

#### ◆ 「ものづくりのまち」の次代を担う成長産業へのチャレンジ支援

- 公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構\*を中心とし、コンシェルジュ事業、企業力向上支援、イノベーション推進を3本柱に、成長6分野\*に対して重点的支援を行い、創造産業\*の創出やイノベーションの連鎖を促す。



\*公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構：地域企業の経営基盤強化を目的として、静岡県、浜松市などが主体となって設立した公益財団法人。

\*成長6分野：はままつ産業イノベーション構想で、成長が期待される産業分野として指定されている「次世代輸送用機器」「健康・医療」「新農業」「光・電子」「環境・エネルギー」「デジタルネットワーク・コンテンツ」のこと。

\*創造産業：広告、放送、デザイン、映画、美術、ゲーム開発、手芸、音楽産業、舞台美術、出版、ソフトウェア開発など、個人の創造性や技能などに由来し、雇用に創出する産業。

- 成長6分野に関する新技術・新製品などの開発を行い、事業化を目指す市内の中小企業者などに対し、研究開発費などの支援により、チャレンジの後押しを行う。
- 国の研究機関の誘致などにより、産学連携による世界最先端の光関連技術の研究を一層強固なものとする。

重要業績評価指標(KPI=2019年)


- ・ 粗付加価値額（従業員 4 人以上の事業所）  
73,851 千万円  92,953 千万円
- ・ 新技術・新製品開発などの事業化件数  
43 件  200 件

◆ “やらまいか精神\*”が根付く地場産業の支援

\*やらまいか精神：遠州（浜松）地方の方言で「やってみよう」「やろうじゃないか」の意味を持ち、何事にも前向きに取り組む気性を表す。

- 繊維、オートバイ及び楽器産業の振興を図るため、地域企業の優れた製品や高度なものづくり技術を発信する。




重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 粗付加価値額（従業員 4 人以上の事業所）  
73,851 千万円  92,953 千万円

◆ 農林水産業の 6 次産業化などの推進

- 多彩な農林水産物の高付加価値化や商品化の促進を図るため、1 次産業者と 2 次・3 次産業者との連携による 6 次産業化の取り組みや、観光産業など他産業との連携を支援する。
- 高性能林業機械の導入や森林作業道の開設などを支援し、林業経営の高度化及び低コスト化に向けた支援を行う。
- CLT（直交集成板）を始め、天竜材を活用した新たな木材製品の開発を支援する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 浜松市未来を拓く農林漁業育成事業費補助金申請件数  
20 件  100 件
- ・ グリーン・ツーリズムによる交流人口  
286 万人/年  303 万人/年
- ・ 木材生産量  
10.5 万 m<sup>3</sup>/年  14.3 万 m<sup>3</sup>/年

◆ 天竜材のブランド力強化及び流通拡大

- 市町村別で全国一の面積を誇る FSC 森林認証面積を今後も更新・拡大し、天竜材の環境的価値を高める。
- 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会関連施設で天竜材使用の実現など、天竜材の流通拡大を支援する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 木材・木製品製造業 製造品出荷額
- ・ FSC 森林認証面積

260 億円/年  450 億円/年

43,238ha  45,500ha

## (2) 海外展開支援と集積による地域企業活性化

- ・ 活力ある海外市場の需要を取り込み、国内事業の活性化を図ろうとする意欲的な地域企業の海外展開を促進するとともに、リーディング産業の集積を進める。
- ・ 農林水産物の海外販路を開拓し、農林水産業の活性化を図る。

### ◆ 海外の活力を取り込むビジネス展開支援

- JETRO 浜松（日本貿易振興機構浜松貿易情報センター）や金融機関などと連携し、中小企業の海外進出を支援するとともに、高度なものづくり技術を有する中小企業の海外販路開拓を促進する。
- 総合的な相談・支援機能として設置しているアセアンビジネスサポートデスク\*を活用し、アセアン地域進出に関する各種相談業務などの進出準備から現地進出、現地での事業拡大までの一貫した支援により、地元企業の成長を促進する。

\*アセアンビジネスサポートデスク：中小企業のアセアン地域におけるビジネス展開を支援するため設置した総合的な相談・支援窓口。海外展開に関する各種相談の受付、現地調査や進出準備等を支援。

- 浜名湖を始めとした地域資源を活用し、インバウンド（訪日外国人旅行）の推進に取り組む。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 見本市出展企業の成約件数
- ・ 海外展開企業数

4 件  22 件

139 社  165 社

### ◆ 新たなリーディング産業となる企業の誘致推進

- 将来の産業需要に合った工場用地を整備し、本社機能、研究開発部門や成長力を持ったベンチャー企業など、新たなリーディング産業を誘致する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 企業立地決定件数

87 件  106 件

◆ 農林水産物の海外販路開拓

- 農林水産業者や中小食品事業者への支援を通じて、農林水産物などの海外市場への販路拡大、農林水産業及び食品関連産業の活性化を図るとともに、広域連携による海外市場への進出可能性について検討する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 商談会などにおける成約件数

新規  15件

(3) 新規創業・就農のチャレンジサポート

- ・ 地域の産学官金の創業・新事業展開に関する各種支援を総括する新体制「はままつスタートアップ\*」を構築し、地域一丸となって創業・新事業展開に関するサポートを実施する。
- ・ 農業及び林業の成長産業化を支える担い手を確保するため、新規就業者などへの支援を行う。

\*はままつスタートアップ：創業等を考えている人のために、地域の各種支援機関が連携し、必要な知識習得、資金調達、販路開拓支援等を総合的に支援する体制。

◆ 創業希望者への相談・情報提供の推進

- 地域の創業支援の総合窓口機能を持つ「はままつ起業家カフェ\*」の運営により、ワンストップ型の創業支援を実施し、創業希望者のチャレンジを後押しする。

\*はままつ起業家カフェ：（公財）浜松地域イノベーション推進機構、浜松商工会議所、浜松市の3支援機関の協同により、浜松商工会議所に設置した地域の創業支援等の総合窓口。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 創業支援事業に伴う新規創業者数

93人/年  120人/年

◆ 新規就業者などへの支援

- 新たな農業ビジネスを創出する意欲のある新規就農者への支援を行うとともに、地域農業を支える農業者の親元就農を支援する。
- 林業事業体及び木材関連企業・団体が行う新規就業者の確保に向けた取り組みを支援する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 新規就農者支援件数
- ・ 新規就業者（林業）支援件数

20件  180件

新規  20件

#### (4) 担い手第一主義の農林水産業振興

- ・ 多様な担い手を育成するとともに、農地の集約化や農業生産を支える基盤整備を推進することで、農林水産業の成長産業化を支える環境を整備する。

##### ◆ 農地の流動化による有効利用の推進

- 農地の流動化を促し、意欲ある担い手への集積を進め、農地の積極的な活用を支援するとともに、農業用水などの農業基盤を強化する。

###### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 担い手への農地集積率

29.0%  38.0%

##### ◆ 多様な担い手の育成

- 農業者の経営者としての資質向上を図り、本市の農業をけん引するリーダーを育成する。
- 障がいのある人などの農業参画の機会を創出するとともに、余暇活動としての農業に関心をもつ市民が農作業を行う場を創出することで、多様な担い手の農業参画による農地の有効活用や農業の活性化を図る。
- 漁港の維持管理及び整備を行うとともに、水産資源の管理と保護に努め、水産業を振興する。

###### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 農業経営塾卒塾生
- ・ 市民ふれあい農園数

新規  45人

50か所  60か所

#### (5) 浜松版スマートシティの推進

- ・ “エネルギーに不安のない強靱で低炭素な社会”「浜松版スマートシティ」の実現を目指し、民間活力を最大限活用したエネルギー政策を推進する。

##### ◆ 浜松版スマートシティの実現

- 産学官金が一体となって推進する協議会を設置し、地域内外の企業が参画するスマートシティ実現に向けた事業を創出する。
- 株式会社浜松新電力\*の運営に参画し、エネルギーの地産地消、再生可能エネルギー資源の有効活用による地域の活性化を推進する。

\*株式会社浜松新電力：再生可能エネルギー由来の電力の地産地消を推進するため、浜松市が出資をする新電力会社。



- 事業所ごとの省エネ診断・省エネ改修や、工業団地などの面的なエネルギーマネジメントシステム（EMS）\*の導入など、民間事業者の省エネ化を促進する。

\*エネルギーマネジメントシステム（EMS）：ICT（情報通信技術）を活用して、家庭・オフィス・工場などのエネルギー消費機器等をネットワーク化し、自動制御することで、電力などエネルギーの最適化を図るシステム。

- 市民、事業者などと一体となり、温室効果ガス排出削減に向けた省エネルギー活動を推進する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ スマートシティプロジェクトの創出件数

新規  10件

◆ 日照時間日本一を活かしたエネルギー自給率の向上

- 事業用及び家庭用の太陽光発電施設の導入促進を図り、太陽光発電導入量日本一を維持するとともに、バイオマス発電や小規模水力発電など多様な再生可能エネルギー導入についても推進する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ エネルギー自給率

8.2%  10.0%

## I-2 労働供給力の開拓

- ・ 魅力的な「しごと」の創出に加え、就労支援、労働・雇用環境の整備を行い、働きたい人が働きたい仕事に自由にチャレンジできる機会の創出とダイバーシティ\*の実現に努める。これにより、女性の活躍促進や東京圏からの若者の転入など、労働供給力の開拓を進める。

\*ダイバーシティ：多様性のこと。年齢、性別、国籍などの多様な人材を活かし、その能力を最大限発揮できる機会を提供し、組織と個人双方の成長につなげようとする考え方。

### (1) チャレンジ・再チャレンジを後押しする就労支援

- ・ 次代の地域産業・経済を担う人材及び労働力を確保するため、浜松市へのUIターン\*就職希望者への就職支援を行う。

\*UIターン：大都市圏の居住者が地方に移住する動きの総称で、Uターンは出身地に戻る形態、Iターンは出身地以外へ移住する形態、Jターンは出身地の近くへ移住する形態を指す。

- ・ 就労意欲のある人の就労相談などについて、個別の状況に応じたサービス提供体制の整備など、人と仕事をつなぐ環境の充実を図る。

◆ ハピキャリアもバリキャリア\*も活躍できる環境づくり

\*ハピキャリア、バリキャリア：ハッピーキャリア、バリバリキャリアの略。自身の生活様式に合わせ、無理のない働き方を志向する考え方（ハッピーキャリア）と、スキルアップ、キャリアアップを志向する考え方（バリバリキャリア）。

- 職業意識の多様化に即した女性就労支援を実施し、就労を希望する女性の就職を後押しするとともに、女性の個性と能力が十分に発揮される活躍の場を創出する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 支援女性の就業率

新規  50.0%

◆ UIJ ターン・地元就職支援

- 次代の地域産業を担う人材確保を目的とし、浜松市への UIJ ターン就職支援を行う。
- 大学などと連携し、地元企業の求める人材の育成を支援するとともに、地元就職率向上のための取り組みを支援する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ COC+<sup>\*</sup>への市内参加校卒業生の市内就職率

 10ポイント以上向上

\*COC+：文部科学省が所管する「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」。静岡大学が申請し、認定された計画に本市は参加自治体として参画している。

◆ 就職を希望する人への就労支援

- 就職困難者に対して、個々の悩みに寄り添った就労支援を行う。
- 高齢の人や障がいのある人などの就労支援を進め、活躍の機会を創出する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 支援就職困難者の就業率

57.0%  60.0%

- ・ 障害者就労支援施設から一般就労への移行者数

115人/年度  217人/年度

◆ 働きやすさ・住みやすさの発信

- 就労環境を始めとした本市の魅力を効果的に発信する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 市区町村別認知度ランキング(全国順位)

25位  15位

- ・ 市区町村別認知度ランキング(県内順位)

2位  1位

## (2) だれもが働きやすい労働・雇用環境の整備

- ・労働意欲を就労に結び付け、やりがいを持って安心して働くことができる雇用環境の整備を支援する。

### ◆ ワーク・ライフ・バランスの推進

- 企業がワーク・ライフ・バランスの重要性を認識し、実情にあった自主的な取り組みを促すため、啓発、表彰などにより、男女が共に働きやすい職場環境の整備を支援する。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ ワーク・ライフ・バランスなど推進事業所表彰 受賞事業所

新規  10社/年

## 基本目標Ⅱ 子育て世代を全力で応援するまち

### Ⅱ-1 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

- ・ 希望出生数をかなえる環境整備を行い、子育て世代を全力で応援することによって、「ひと」が集まるまちを目指す。
- 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援を行い、結婚や出産を望むすべての人が希望をかなえられるよう努める。

#### (1) 結婚・妊娠の希望を全力で応援

- ・ 結婚や妊娠に対する希望に寄り添う支援を行う。
- ・ 若い世代に対する妊娠・出産に関する正しい知識の普及・啓発を図るとともに、結婚・妊娠・出産のための健康づくりを推進する。

#### ◆ 結婚・妊娠に対する前向きな機運の醸成

- 若い世代の結婚の希望をかなえられるよう出会いの場の創出や仲介役の養成などの各種サポートを実施する。
- 家庭を築くことの意義や妊娠・出産・不妊について、中学生、高校生を中心に正しい知識の普及・啓発を強化することで、人生設計を考える機会を創出する。

##### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 女性の平均初婚年齢 29歳 → 27歳
- ・ 全妊婦の内、20歳～34歳に妊娠した人の割合 75.9% → 80.0%以上

#### ◆ 不妊に対する包括的な支援

- 不妊の悩みを抱える人に、早期の受診行動につながるよう情報提供を行うとともに、不妊治療に対する支援を行う。

##### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 特定不妊治療（初回）治療開始時平均年齢 35.6歳 → 35歳未満

#### (2) 安心して出産できる環境づくり

- ・ 子育て世代が子どもを安心して生み育てられるように、妊娠・出産に関する不安や出産して間もない母親の育児不安・負担を軽減するため、切れ目のない支援を実施する。

### ◆ 母子の健康の保持・増進

- 保健師などの専門職による母子健康手帳の交付や赤ちゃん訪問など、すべての妊産婦、乳幼児の状況を把握し、関係機関と連携しながらきめ細かな支援を実施する。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 妊娠・出産の支援に満足している人の割合

63.7%  70.0%以上

### (3) 待機児童の解消と子育て支援の充実

- ・ 幼児教育施設・保育施設の整備などを行うとともに、子育て中の就労・子育て後の職場復帰を支援するなど、子育てがしやすい生活環境を整備する。
- ・ 市民主体の子育てサポートの促進など、仕事と子育てが両立できる環境づくりを支援することで、家庭と企業、地域が一体となって子どもたちに愛情を注ぎ、その成長を見守る環境を整える。

### ◆ 保育施設・放課後児童会の拡充

- 待機児童解消のため、認定こども園や保育所の創設、増改築などを推進する。
- 市民団体や法人など多様な主体による放課後の子どもたちの居場所づくりを推進する。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 保育所など利用待機児童数
- ・ 放課後児童会利用待機児童数

407人  0人

311人  0人

### ◆ 地域の子育て力の向上

- 子育て中の親子を地域で支える子育て支援ひろばを充実するなど、地域において子育て家庭の不安を緩和し、子どもの健やかな育ちを支援する。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)


- ・ 地域子育て支援拠点延べ利用者数

326,663人/年  383,000人/年

### ◆ 子育てに対する不安や負担の軽減

- 子どもと家庭に対して、関係機関と連携し総合的な相談体制の強化・充実を図る。
- 医療費を始めとし、子育て・幼児教育・保育・教育に要する費用負担の軽減に取り組む。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 子育て中の市民が「子育てがしやすくなっている」と感じる割合  
43.2%  50.0%

## II-2 「創造都市・浜松」を担う次代の育成

- ・ 将来を担う地域の宝である子どもたちの個性に応じ、意欲と才能を引き出す教育を進め、「創造都市\*・浜松」の未来を担う「ひと」を育てる。また、市民総がかり教育を推進し、地域の子どもの地域で育てる環境整備を行う。

\*創造都市：地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、その活動が新しい価値や文化、産業の創出につながり、市民の暮らしの質や豊かさを高めていく都市。

### (1) 第2・第3のノーベル賞受賞者の育成

- ・ 能力や興味に応じた学びの機会と場を整えることで、子どもたちの意欲と才能を最大限に引き出し伸ばす教育を推進する。

#### ◆ 子どもの才能を伸ばす特別課外講座の充実

- 産官学の連携により、一人ひとりの“得意”を伸ばす理数、ものづくり、ICTなどの特別課外講座を実施し、将来の浜松を担う人材を育成する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 全国レベルのコンテスト入賞者数

4人  15人

#### ◆ 子どもの興味を引き出す機会の充実

- 音楽や美術を中心とした芸術や地域の伝統文化などに触れる機会を設け、創造性豊かな人材を育成する。
- 最新の科学や地域の歴史、幅広い学習に対応できる図書の充実などにより、主体的な学習活動を支援する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心が満たされていると思う人の割合

30.7%  33.0%

## (2) 地域の力を活かした市民総がかりのひとづくり

- ・すべての子どもたちが生きる力を身に付けられるよう、教職員の指導力の向上や教育環境の整備・充実に取り組む。
- ・家庭や地域、企業、各種団体などが一体となって子どもの教育に取り組む環境を整える。
- ・不登校、外国人、障がいのある子どもへの支援体制を整備する。
- ・互いの個性を認め合い、心の通い合う温かで優しい人間関係を築き、いじめをしない、許さない子どもを育成する。

### ◆ 地域・保護者・学校の連携による学校づくり

- 家庭や地域の学校運営への参画を促進し、企業、大学、NPOなどが一体となって子どもの教育に取り組む場を創出することで、浜松の子どもをみんなで育てる環境を整備する。
- 学校、家庭、地域が目的を共有し、一貫性のある教育を推進する。
- 子どもたちが「確かな学力」と「生きる力」を身に付けるための、小学校と中学校の垣根を越えた教育を推進する。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ コミュニティ・スクール\*推進モデル校実施数

新規  8校

- ・ 保護者や地域の人がボランティアや外部講師として支援する授業の実施率

48.0%  70.0%


\*コミュニティ・スクール：よりよい教育の実現のため、保護者や地域住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画する仕組み。

### ◆ 地域愛をはぐくむ教育の実践

- 地域で活躍している人から直接話を聞いたり、地域の先人、自然環境、歴史や文化などを調べたりする活動を充実させ、子どもたちが地域のよさを知り、地域への誇りを持つことができる教育活動に取り組む。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)



- ・ 自分のふるさとが好きだと答える子どもの割合

小学生 93.9%、中学生 93.1%  100.0%

### ◆ 子どもの個性に応じた支援体制の整備

- 不登校児童・生徒への相談体制を強化し、学校復帰に向けた仕組みを発展させる。
- 外国人の子どもの学習機会を確保するため、日本語能力に応じた支援を行うとともに、関係機関と連携し、不就学を防止する。
- 心身に障がいのある児童・生徒が在籍する学校に指導員などを配置し、障がいのある子どもの教育の充実を図る。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 自分にはよいところがあると思う子どもの割合  
小学生 82.2%、中学生 74.2%  80.0%
- ・ 外国人の子どもの不就学  ゼロ維持



## 基本目標Ⅲ 持続可能で創造性あふれるまち

### Ⅲ-1 安全・安心なまちづくり

- ・ 誰もが引き寄せられる都市の魅力を創出するため、災害に強く、安全・安心で、持続可能な「まち」づくりを進める。

#### (1) 災害に強いまちづくりの推進

- ・ 人命を守ることを最も重視し、ハード・ソフト両面からの充実・強化を進め、地震・津波などの災害による被害を最小限に留める。
- ・ 地域と行政の緊密な連携により地域防災力の強化を図るとともに、防潮堤\*整備への理解を深め、早期実現の機運を醸成する。

\*防潮堤：浜松市沿岸域 17.5km に静岡県と浜松市が連携して整備中の南海トラフ巨大地震レベル2津波に対応する堤防。

#### ◆ 防潮堤の早期実現

- 防潮堤整備に必要な土砂の確保・搬出を行うとともに、市民の機運を醸成し、沿岸域における防潮堤の早期実現を図る。

##### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 防潮堤の完成

進捗率 4.0%  100.0%

#### ◆ 地域防災の推進

- 地域の特性や災害事象などを考慮し、市民一人ひとりが、確実に防災情報を入手することができる多様な手段の確保を進める。
- 土砂災害警戒区域における被害の防止に向け、市民に危険区域の周知を図るとともに速やかな避難体制の整備を支援する。
- 緊急輸送路上の橋りょう、上下水道の基幹管路などの耐震化とともに、総合治水対策を推進する。

##### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 自分の生命と財産は自分で守らなくてはならないと思う人の割合

76.4%  78.0%

- ・ 緊急輸送路上の橋りょう耐震対策実施率

68.0%  100.0%

## Ⅲ-2 にぎわいの創出

- ・ 創造都市・浜松を推進するとともに、都市としての魅力を高め、浜松ブランドを確立する。都心部はもとより、中山間地域についても、にぎわいのある「まち」を創出する。

### (1) 創造都市の推進

- ・ 音楽文化などを通じて国内外に感動を与える創造都市を築くため、市民の創造的活動を支援するとともに、新たな創造の担い手を育成・支援する基盤を整備し、世界で活躍するミュージシャンやクリエイターが輩出する活気あるまちづくりを推進する。

#### ◆ 多様な音楽に触れる機会の創出

- ユネスコ創造都市ネットワーク\*音楽分野への加盟を契機として世界の創造都市を始め国内外の音楽都市と人材育成などで連携を進めるとともに、音楽祭などの開催により、市民が世界の良質な音楽文化に触れる機会を創出する。

\*ユネスコ創造都市ネットワーク：地域固有の文化の消失を防ぎ、文化的多様性を保持することを背景に、創造的・文化的産業の振興と持続可能な都市の開発に向けた国際的な都市間連携・交流を促進するプログラム。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が加盟の審査・選考を行う。

- 市民活動団体が主体的に実施する創造的な取り組みを支援し、活動の活発化を図る。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 音楽を始めとする市の文化事業に対する満足度

35.9%  38.0%

### (2) 浜松・浜名湖ブランドの確立による交流人口の拡大

- ・ 世界から選ばれる浜松・浜名湖ブランドを確立し、交流人口の拡大を図る。
- ・ 国内外から多くの来訪者が滞在して観光を楽しみ、リピーターとなるよう、誰もが安全快適にアクセスできる受け入れ環境を整備するとともに、自然、歴史、景観などの資源を国内有数の浜松・浜名湖ブランドに育て、浜名湖観光圏\*の魅力をも高める。

\*浜名湖観光圏：浜名湖及びその周辺地域の観光施策を官民・自治体の枠を超えて推進していく観光圏として国の認可を受けた。浜名湖サイクリングや舟運、浜名湖花フェスタなどの観光地の魅力を向上する事業を行うことで、国内外からの観光旅客の来訪及び滞在を促進し地域を活性化することを目的とする。

#### ◆ ブランドの確立

- 多様なメディアや手法を組み合わせた戦略的なシティプロモーションを展開し、都市の知名度やイメージを向上させるとともに、国内外の人から信用され、好まれ、選ばれる都市ブランドを確立する。

- 「出世」をキーワードとして、様々なナンバー1、オンリー1（ヒト、モノ、コト）を意識的に発掘・発信し、他の地域との差別化を図り、都市の魅力を向上させる。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 市区町村別認知度ランキング（全国順位）

25位  15位

- ・ 市区町村別認知度ランキング（県内順位）

2位  1位

### ◆ 国内外からの交流人口の拡大

- 官民連携により、日本版 DMO\*の構築に向け、浜松・浜名湖地域の誘客・受け入れ体制の整備を進め、世界に誇る観光地域づくりを推進する。

\*DMO：Destination Management/Marketing Organizationの略称。戦略策定、各種調査、マーケティング、商品造成、プロモーション等を一体的に実施する、主に米国、欧州で見られる組織体。

- 公的機関が主催するコンベンション（会議）に加え、民間企業が主催する報奨・研修旅行やスポーツ大会・合宿など、MICE\*全般の誘致強化を図る。

\*MICE：企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・イベント（Exhibition/Event）の頭文字で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

- ラグビーワールドカップ2019及び2020年オリンピック・パラリンピック東京大会へ向け、産業分野、官民の連携を深め、事前キャンプの誘致、海外への情報発信や受け入れ体制整備を進める。
- 平成29年の大河ドラマ「おんな城主 直虎」放映を契機とし、市内の歴史遺産を見直す中で、歴史と文化の街・浜松として、観光交流人口の拡大を図る。
- 日本遺産\*の認定を目指し、歴史・文化資源の活用、整備を進める。

\*日本遺産：文化庁が認定する、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリー。「文化財版クールジャパン」とも表現される。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 観光交流客数

18,400千人/年  23,700千人/年

- ・ 外国人宿泊客数

279千人/年  300千人/年

### (3) 地域の特性を活かした魅力づくり

- ・ 地域資源の積極的な活用により、商業、業務、居住機能の充実・強化や交流人口の増加を目指し、「民間投資が誘発される都心づくり」や「民間活力を活用したにぎわいの創出」を図ることで、創造都市の玄関口にふさわしい魅力ある都心を形成する。
- ・ 市民、市民活動団体や企業など、多様な主体との協働により、中山間地域

の振興を図る。

#### ◆ まちなかのにぎわい創出

- 「浜松市まちなかにぎわい創生計画\*」の施策を着実に推進し、「来たい都心（まち）」、「住みたい都心（まち）」、「参加したい都心（まち）」の実現を目指す。

\*浜松市まちなかにぎわい創生計画：地域再生法に基づき、国の認定を受けた地域再生計画。市中心部の活性化を目的として、まちなかアート整備事業などを実施する。

##### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 歩行者通行量（休日・主要8地点）

99,392人  109,300人

- ・ 都心の居住人口

11,359人  13,100人

#### ◆ 中山間地域のにぎわい創出

- 多くの市民の中山間地域に対する関心を高めるよう、中山間地域と都市部の交流機会を創出する。
- 民間企業などが中山間地域の遊休施設を利用しやすい制度を構築することで、有効活用を促進し、地域の活性化を図る。
- 首都圏を始めとする都市部の人に、中山間地域の魅力を積極的にPRするとともに、移住から定住につながるよう、地域の受け入れ体制を整備する。

##### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 遊休施設を利用して事業を実施している民間企業などの数

5団体  8団体

- ・ 市の制度を利用して移住した人数

11人/年  20人/年

### Ⅲ-3 支えあいによる地域社会の形成

- ・ 人と人とのつながりをつくる社会の実現や、人口減少社会においても持続可能な地域コミュニティづくりを進め、支えあいによる地域社会を形成する。健康寿命を延ばす取り組みを行い、超高齢社会においても、誰もが活躍できる「まち」づくりを進める。

#### (1) 次世代を見据えた地域コミュニティの形成

- ・ 地域防犯の取り組みにより犯罪のない社会を目指す。
- ・ 市民、住民自治組織、市民活動団体など多様な主体が連携して地域課題を解決できるような環境づくりを行う。
- ・ 多文化共生\*推進の関係機関や各種団体など多様な主体との協力・連携によ



り、外国人の地域社会での活躍を促進する。

\*多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

### ◆ 市民協働のまちづくりの推進

- NPOなどの市民活動団体が、地域で主体的に活動できる環境づくりを推進する。
- 地域住民による自主的防犯活動団体や防犯協会を通じ、地区ごとの連携を図るとともに地域の防犯活動を推進する。
- 危険な空き家などの適正管理に向けた対策を強化する。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)



- ・ 所轄 NPO 法人の総事業費  
35.7 億円  36.3 億円
- ・ 市民参加による「地区安全会議\*」の設置率  
90.9% (50 団体)  100.0% (55 団体)

\*地区安全会議：自主的に地域の防犯活動や安全活動など行っている各種団体が、互いの連携や協力が図られるよう概ね中学校区で構成される組織。

### ◆ 多文化共生による市民主体の地域社会の形成

- 外国人市民との多文化共生を推進し、相互の理解と尊重の下、多様性を活かした市民活動が浜松の特長となるまちづくりを進める。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 近隣の日本人市民とのつきあいがあると答える外国人市民の割合  
85.2%  90.0%
- ・ 近隣の外国人市民とのつきあいがあると答える日本人市民の割合  
36.8%  40.0%

## (2) 人と人とのつながりをつくる社会の実現

- ・ 活躍の場を求めている高齢の人や障がいのある人が社会活動に参加しやすい仕組みを構築し、住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心して暮らすことができる地域社会を目指す。
- ・ 介護などが必要な人に対しては、医療・介護機関の連携を一層強化し、在宅などの必要なサービスが円滑に提供できる体制を整備する。

### ◆ 医療・介護・予防・住まい・生活支援など切れ目ないサービス提供

- 地域包括ケアシステム\*の構築に向け、高齢者相談センター（地域包括支援センター）の支援体制の強化や医療と介護の連携、認知症の予防・重度化防止など総合的な対策を実施する。

\*地域包括ケアシステム：高齢者が重度の要介護状態となっても、できる限り住み慣れた地域で自立した暮らしを続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援の必要なサービスを切れ目なく一体的に提供する仕組み。

- ▶ 元気な高齢者のボランティア活動などへの参加促進、障がいについての理解及び社会参加の促進、特別養護老人ホーム入所待機者の解消などにより、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる地域づくりを進める。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 特別養護老人ホームの待機者（在宅重度）  
398人 ↓ 0人
- ・ 浜松市ささえあいポイント事業のボランティア登録人数  
1,289人 ↑ 2,900人

### (3) 政令指定都市トップの健康寿命の延伸

- ・ 病気や介護の予防に重点を置き、心と体の健康を維持しながら、いきいきと暮らし、快適で質の高い生活を送ることができるよう支援する。

#### ◆ 一人ひとりが健康づくりに取り組みやすい環境整備

- ▶ ロコモーショントレーニングやスローエアロビックの普及など、市民が健康づくりに取り組むきっかけを提供し、介護予防、生活習慣病の発症・重症化予防に努める。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 健康寿命  
男 72.98 歳、女 75.94 歳 ↑ 男 73.48 歳、女 76.44 歳
- ・ ロコモーショントレーニングの参加者数  
525人 ↑ 15,000人

## Ⅲ-4 コンパクトでメリハリの効いたまちづくり

- ・ 効果的・効率的な市民サービスの提供や、拠点ネットワーク型都市構造\*の形成により、コンパクトでメリハリの効いた「まち」づくりを進め、持続可能な都市経営を行う。

\*拠点ネットワーク型都市構造：浜松市都市計画マスタープランで本市の将来都市構造として示す、都市機能が集積した複数の拠点形成と公共交通を基本とした有機的な連携による都市構造のこと。

### (1) 拠点ネットワーク型都市構造の形成

- ・ 人口減少社会においても、市街地の一定の人口密度を維持するとともに、日常生活に必要なサービスが身近に存在するコンパクトでメリハリの効いた「拠点ネットワーク型都市構造」を目指し、公共交通と連携したまちづくりを推進する。

### ◆ 集約型の都市づくり

- ▶ 住宅及び医療施設、福祉施設、商業施設その他の居住に関連する施設の立地を公共交通結節点や道路・鉄道の沿線区域への誘導を図るため立地適正化計画\*を策定する。

\*立地適正化計画：改正都市再生特別措置法に基づき、市町村が住宅及び医療施設、福祉施設、商業施設その他の居住に関連する施設の立地を一定の区域に誘導するため定められることができるとされた計画。

- ▶ 市民のライフステージに応じた居住の安定、居住水準の向上を図るため、民間事業者などとの連携により、空き家の利活用や民間賃貸住宅及び公営住宅などを有効に活用する。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 立地適正化計画
- ・ 居住関連施設の立地誘導を図る用途地域\*の変更

新規  策定

新規  22ha

\*用途地域：市街地の土地利用の基本的枠組みを明らかにするものであり、住居、商業、工業その他の用途を適切に配分し、建築物の用途、密度及び形態などに関する制限を設定することにより、機能的な都市活動の推進、良好な都市環境の形成を図るもの

### ◆ 拠点を結ぶ交通ネットワークの形成


- ▶ 都心や地域生活拠点などを公共交通及び道路のネットワークで結び、拠点間移動を促進する。
- ▶ 主要な駅の駅前広場整備及び主要なバス路線のバス停環境改善によって、交通結節点の機能を強化し、公共交通の利便性や魅力を高める。

#### 重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 市街地における交通の円滑化（平均旅行速度\*の向上）

26 km/h  30 km/h

- ・ 主要な駅、バス停の利用者

 利用者数の維持（約 27,200 千人）

\*平均旅行速度：人口集中地区（DID）における国道・県道の一定区間を車で移動した時間の平均速度で、信号待ちや交通渋滞による停止時間を含めて算出する。

## (2) 効果的・効率的な市民サービスの提供

- ・ 組織や職員の適正化、公共施設などのファシリティマネジメント\*や財源の確保、規律ある財政運営など、不断の行財政改革を進める。

\*ファシリティマネジメント：企業・団体などが保有する資産や利用環境を経営戦略的視点から、総合的かつ総括的に企画、管理、活用する経営活動のこと。

- ・ 遠州地域、三遠南信地域の広域連携を進め、圏域の一体的な発展を目指す。

◆ 持続可能な市民サービス提供体制の構築

- 持続可能な市民サービスの提供体制を構築するため、行財政改革の必要性などの情報を積極的に発信し、全市的な議論を行うことができるよう市民意識の醸成を図る。
- 資産の総合的・総括的な管理を推進し、広域的な利用など、柔軟に資産を活用するとともに、施設の長寿命化、保有財産の売却などにより新たな財源を確保する。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 総人件費の削減
- ・ ハコモノ資産・インフラ資産充足率\*
  - 2013 度対比 10.0%減 (2020 年度)
  - ハコモノ資産 64.1% ↑ 70.0%、インフラ資産 52.7% ↑ 60.0%

\*ハコモノ資産・インフラ資産充足率：保有資産に関する将来の改修・更新経費試算値（一年当たり）に対して、改修・更新に係る投資実績額（一年当たり）が占める割合のこと。

◆ 広域連携の推進

- 東三河、遠州及び南信州の「三遠南信地域」における官民連携組織である「三遠南信地域推進ビジョン会議」(SENA)について、会長市として地域内の産官学金の連携と地域活性化に向けた取り組みを進めるとともに、更なる体制強化を図る。
- 遠州地域 8 市 1 町の首長からなる「遠州広域行政推進会議」について、地域の共通課題に関し共同研究を進め、その解決を図る。

重要業績評価指標(KPI=2019年)

- ・ 三遠南信地域における新規連携施策数
- 新規 ↑ 10 件